

みどりひと



SUGINAMI CITY

みどりの新聞 平成21年9月20日 発行 No.149

専門家に聞く

園芸ワンポイント

クリスマスローズ

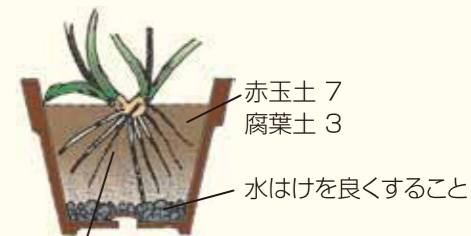
指導
澤地家治
先生

みどりに関する専門相談は
塚山公園みどりの相談所
☎ 03-3302-9387
(毎週土・日曜日 午前9時～午後4時30分)



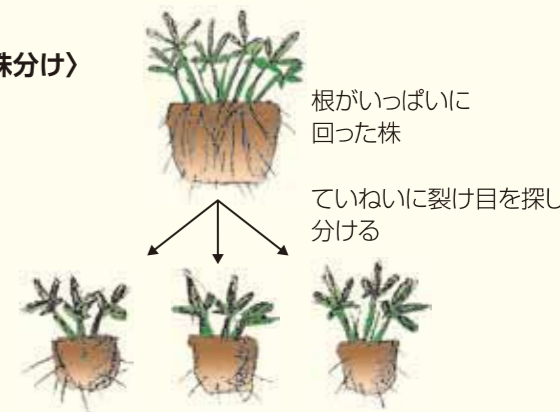
キンポウゲ科ヘラポレス属の宿根草。園芸店で売られているものには、ニゲル系(1~2月に白い花が1花茎に1~2輪咲く)とオリエンタル系(2~4月に白色・桃色・紅色などの花が1花茎に2~4輪咲く)の2種類がある。東欧州を中心として広く欧州に分布して自生する植物。

【植え方】



葉が大きいので6~7号鉢に1~2株を植え付ける

【株分け】



根がいっぱいになった株

ていねいに裂け目を探し分ける

【年間管理表】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
手入れ												
生育状況	開花期(花から、古葉とり)					生育	半休眠状態(夏期)				古葉とり	
置き場所	軒下	日当たりのよい所	風通しのよい場所(直射日光は避ける)	日当たりのよい所	軒下							
肥料		開花期にうすい水肥(月に1回~2回追肥)	(夏は肥料中止)							油粕の置肥		
水やり		鉢土の表面が乾いたらたっぷりと					やや乾かし気味(過湿は避ける)					
株分け			株替え4~5年に一度(鉢植え)				株替え(地植え)					
病虫害							アブラムシ、ハダニ、ナメクジ					
摘要	早咲き種は夏期ハマキムシの被害に注意											

●置き場所

生育期には日当たりのよい、風通しのよいところに置く。夏は暑さのため、生育ができない半休眠状態になるので、北向きの涼しい場所で、なるべく西日の遮られるところを選ぶ。冬は南向きの軒下など、北風を避ける必要がある。毎年、初冬の頃、軽く増土をすると、株が大株になる。

●肥料

開花後から6月中旬頃まで、うすい液肥から、油粕と骨粉を半々に混ぜたものを株元に置き肥*1)する。休眠期の夏は中止し、9月中旬以降、置き肥する。

●水やり

開花期は水分の蒸散が多いので多めにたっぷりと与える。夏季、暑いからといって水のやり過ぎは根を傷めるので、表面が乾いたら十分にやるようにする。

●株分け

鉢植えの場合は、4~5年に一度、5~6月頃、地植えの場合は9~10月頃に行う。植え方は親株を傷めずに分割できる分岐点があるので、ゆっくりと根をほくしてから、株を2~3株に分けて植えるとよい。根は長く太いので、6~7号の鉢によく根を広げて、深植えにならないようにする。ウォータースペースは深さ1cmくらいがよい。植土は赤玉(小)7割、腐葉土3割、他に元肥*2)などで、植え終えたらたっぷりと水を与える。

●病虫害

夏はナメクジ・アブラムシをこまめに捕殺、殺虫する。早咲きのニゲル系などはハマキムシの被害を受けやすいので防除する。

*1)置き肥:「おきひ」「おきごえ」ともいう。鉢植え植物の鉢土の表面に置いたり、浅く埋めたりする肥料で、追肥の一種として与える。

*2)元肥: 植物を植えつける前の土に、前もって与えておく肥料。「もとひ」「げんび」とも呼ぶ。

連載

すぎなみ イケてる池

歴史とひとのつながり

妙正寺池

(区立妙正寺公園)

環

状八号線から東に三〇〇mほど入った住宅地の一角に、妙正寺池があります。妙正寺池は、昭和三十八年に開園した妙正寺公園の中心を占めています。池は武蔵野台地の湧水池のひとつで、妙正寺川がここから流れ始め、新宿区下落合で神田川に合流します。妙正寺池には、現在は地上部が遊歩道に整備された旧井草川が流れ込み、さらに上流部は上井草の切通し公園のかつての湧水が源流となっています。

池の周辺には五月頃が花盛りのツツジやサツキをはじめ、トウネズミモチ、ウツギ、ケンボナシや、半里塚として植えられることもあったサイカチなど多くの植物が生い茂っており、とりわけ、堂々とそびえたつヒマラヤスギが目立ちます。秋に見られる球果の名残りがバラソっくりなので、シダーローズともいわれています。他にイチヨウ、ケヤキ、イロハカエデなどの紅葉が見られ、池を訪れた人々を楽しませてくれます。

池の名前は、公園の南側にある日蓮宗の古刹、法光山妙正寺に由来します。妙正寺は下総の中山法華経寺と関係が深く、正平七年(三三三)この建立と伝えられています。代々、植物のお好きな住職が多く、池の周辺をはじめ寺の周辺に多くのサクラを植えたこともあったそうです。お寺で見せてくださった、昭和初期の妙正寺池の横を通る花嫁行列の写真が、池とその周囲の自然とともに生きる地元の人々の姿を彷彿させます。みどりが減ったとはいえ、それでも今ある樹木との共生のために日々剪定や落ち葉掃きなどの努力をされていると、お話しいただいたお寺の方からは、樹木への深い愛情を感じました。

人と樹木の歴史で織り成された妙正寺池が、これからも訪れる人々のオアシスとなるよう、大切に守っていきたく思います。



ケンボナシの果実



ヒマラヤスギの球果



3つの噴水が吹き上げる妙正寺池

編集後記 「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- この号が出るのは9月、今年ももう3/4が過ぎようとしています。まさに光陰矢の如し、のんびりしてはいかん!と反省もまた一瞬・・・(朋)
- この夏は、「杉並の小さなみどり」を求めて区内を走り回りました。いい汗を流せたのも、みどりの魅力ですね。(羽)
- 夏でも美しく咲いていた花々に元気をもらい、暑さを乗り切りました。(山)
- 9月にシルバーウィークというのか、休日が続くようですね。読書の秋、活字にも親しみたいと思っています。(中)

みどりの新聞 みどりとひと149号 平成21年9月20日発行

編集/みどりのボランティア
編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎ 03-3312-2111
「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。 <http://www.city.suginami.tokyo.jp/>



大豆インク使用



ケナフ紙使用

緑の歳時記

杉並区内でよく見かける帰化植物



ワルナスビ

(悪茄子) ナス科

北アメリカ原産の多年生草本

高さは40～80cmになり、葉は互生し、長さ10～15cmのたまかな切れ込みのある長楕円形です。花期は6～10月で、枝先に直径約2cmの淡紫色または白色の星形に5裂した花を着け、果実は球形で黄色に熟します。また、茎や葉の脈上に鋭い刺があり、触ると人に悪さをし、畑の害草として嫌われるので、この名前がつけました。昭和の初期(1930年頃)に千葉県三里塚の牧場に侵入し、オニナスビ、ノハラナスビ、オニクサとも呼ばれました。地中で径3mmくらいの地下茎をのばし、その断片で増えるので、繁殖力がものすごく旺盛です。区内では善福寺川なかよし橋から西田橋(都立善福寺川緑地)の土手と緑地でみることができます。ワルナスビにとって刺は人に抜かれないための防衛手段なのかもしれません。観察する際にはくれぐれも刺にさされないよう注意しましょう。



みどりのベルトづくり進行中!

大それた取り組みではありません

地球環境のため、エコロジーのためなんて大それた取り組みではありません。『まず自分が気持ちいいと思うみどりを身のまわりに増やそう、そうするとみんなのみどりがつながって、だんだん気持ちいい空間が広がります』という取り組みです。

現在はJR高円寺駅の南側をモデル地区に指定し(右図)、みどりのベルトづくりを進めています。地域の方々が主体となって「花とみどりの高円寺」という会をつくり、自分たちができることは何かを話し合い、実際にみどりを増やすことを目指して活動を重ねています。区では、地域の方々が生け垣などをつくるときに費用を助成したり、専門家による講演を行うことでみどりの増やし方・見せ方などをご紹介します。

「うちは緑化する土地がないから…」というお話をよく耳にします。確かに、杉並区内では大きな樹木が繁る屋敷林がある反面、高円寺のように建物が密な地域では、みどりを増やすスペースが少ない場合があります。それでも30cmの幅で土があれば、その場所にあった緑化ができます。まったく土がなくても、「なるほどね」と思わず言うしまうような方法もあります。うまくいけば、エアコンを使わなくても夏の暑さをしのげるという生活が、本当にできるのです。

阿波踊りで集客120万人が訪れる高円寺。住む人ばかりでなく、来訪者にも気持ちのいい、そんな高円寺のまちを感じてもらえるよう、「みどりのベルトづくり」を進めています。



モデル地区

【問合せ先】

みどり公園課みどりの計画係
電話:03(3312)2111(代表) 内線:3593～4

みどり探訪

一地域と共に守り、育てる貴重木

貴重木とは、杉並区みどりの条例に基づき指定されている保護樹木のうち、特に大切に残そうとしている樹木です。

～松ノ木の貴重木～

ヤマザクラ・ギンモクセイ・タラヨウ



▲堂々とした樹形を誇るタラヨウ

◀字が書けるタラヨウの葉



▲大きく枝を広げるヤマザクラ

松ノ木一丁目にあるこんもりした屋敷林。この中にはヤマザクラ(山桜 バラ科)、ギンモクセイ(銀木犀 モクセイ科)、タラヨウ(多羅葉 モチノキ科)と、3本もの区の貴重木があります。取材に伺ったのは暑い夏の午後でしたが、門を一步入ると大きな木の下を風が吹き抜けて、涼しさにホッとします。

まず玄関前に一段と大きなヤマザクラが枝を伸ばしていて、春にはとても見事に花を咲かせるそうです。9～10月頃に白い花を咲かせるギンモクセイは、玄関の脇でもうたくさんの花芽をつけていました。水を好むといわれるタラヨウは庭の池畔に堂々とした姿をみせています。葉に字が書ける『はがきの木』としても有名です。これらの貴重木以外にも広い敷地には、タイサンボク、イロハモミジ、クスノキなど多くの大木がそびえたち、奥に入るとまるで社寺の森かと思うほどうっそうとしています。

このお宅のご先祖がこの地に移り住んだのが天正の始め頃(16世紀末)とのこと。以来何百年もの間、代々守り育ててきた木々なので後世に大事に残したいとご当主は言われます。しかし手入れひとつにしてもそれは大変で、大きな木は毎年2～3回、植木屋さんたちが泊り込みで機械を使って刈り込みをし、小さな木はご当主自身が暇を見ては手をいれているそうです。

1本でも大きな木を残すのが難しい時代になりました。広い屋敷林を存続させるためには周囲の協力が必要です。みどりの



▲木々への愛情を語る松島さん

の恵みを先の世代まで生かせるように、私たちも今できることを考えたいと思います。

*個人宅につき邸内には立ち入れませんが、玄関前からは観賞できます。



▲玄関脇のギンモクセイ

